

# 小ギク栽培情報

令和3年産 第4号（6月号）

5月に引き続き、白さび病の発生しやすい季節です。また、気温の上昇に合わせてアザミウマ類、ハダニ類といった害虫の発生も増加します。

近畿地方の梅雨明けの平年値は7月19日ごろとなっており、今しばらくは悪天候が続くやすい時期となります。天気予報を確認しながら、降雨の前日に農薬を散布し、しっかりと防除を行いましょう。

## 1. 病害虫の防除

**さび病・アザミウマ類・ハダニ類の発生に注意しましょう！**

- ・病害の発生しやすい天候が続くとみられます。定期的(10日ごと)に農薬散布をお願いします。
- ・あわせて、気温の上昇に伴い、アブラムシ類以外にもアザミウマ類、ハダニ類の発生も増加します。殺菌剤散布時に殺虫剤を混和し、予防的防除に努めてください。
- ・白さび病について、定植からこれまでの間に一度発生があり、発蕾以降に再発した場合は、被害が激しくなりやすく、治療剤を用いてもなかなか止まらないことがありますので、白さび病罹病葉をすべて除去するようにしてください。



アザミウマ類が寄生した葉（カスリ状の色抜けと裏側が銀色っぽく光っているのが特徴）

## 2. 立枯れ症状対策

- ・降雨が続いた後の晴天時等に、しおれ症状が見られるなど根傷みの兆候がある場合は、酸素剤を施用し、根の回復に努めてください。

## 3. フラワーネットによる倒伏防止

- ・生育に合わせてフラワーネットの位置を随時上げていくようにしてください。フラワーネットの高さは、小ギクの草丈で上から1/3程度の位置に合わせていきます。
- ・豪雨、強風が予想される時には、矢じりバンドによるフラワーネット位置の固定や畝中間の支柱の追加によりフラワーネットのずり落ちを防ぎ、株の倒伏を防いでください。

表 6月下旬～7月中旬の防除ローテーションの例

(令和3年5月31日時点での登録のもの)

| 時期          | 対象病害虫                                 | 薬剤名          | 使用量・倍率                                     | 回数 | RAC コード       |
|-------------|---------------------------------------|--------------|--|----|---------------|
| (6月下旬) 成長期⑤ | 白さび病                                  | ラリー乳剤        | 3,000倍                                     | 5回 | F:3           |
|             | アブラムシ類<br>アザミウマ類                      | モスピラン顆粒水溶剤   | 2,000～4,000倍<br>2,000倍                     | 5回 | I:4A          |
| (7月上旬) 成長期⑥ | 白さび病<br>アブラムシ類<br>アザミウマ類<br>ハモグリバエ類   | ハチハチ乳剤       | 1,000倍                                     | 4回 | I:21A<br>F:39 |
|             | ハダニ類                                  | ダニサラバフロアブル   | 1,000倍                                     | 2回 | I:25A         |
| (7月中旬) 成長期⑦ | 白さび病                                  | アミスター20フロアブル | 2,000倍                                     | 5回 | F:11          |
|             | アザミウマ類<br>ハモグリバエ類<br>ヨトウムシ類<br>オオタバコガ | アフアーム乳剤      | 1,000～2,000倍<br>1,000倍<br>1,000倍<br>1,000倍 | 5回 | I:6           |

※農薬の使用に当たっては、必ず薬剤容器ラベルの記載事項を確認し、適正に使用してください。